

NO. 61-8

鋼橋技術研究会

鋼橋の維持管理技術研究部会

昭和61年度報告書

昭和62年5月

1. まえがき

鋼橋技術研究会・維持管理技術研究部会では、昭和61年度は60年度に引き続き、鋼橋のうちRC床版を有するプレートガーダー橋の維持管理技術の研究を行った。

具体的な活動は、前年度と同様に検査、耐荷力、補修の3のワーキンググループを組織し、各グループ毎に定期会合を持って前年度積みのこしの問題の処理および新規研究課題に取り組む事であった。

検査グループ（幹事 川重 三池）では、前年度作成した検査部位と検査率の見直しと非破壊検査法の比較選定、破壊力学手法による疲労クラックの進展の研究および抜き取り検査における抜き取り率の検討を行い、報告書にまとめた。次年度は非破壊検査手法の確立を目指す考えである。

耐荷力グループは、前年度に作成した耐荷力に関する文献収録集を基に、独自の耐荷力算定方法の確立を目指したが、文献の内容が未だ実務的レベルに至っていないこと、耐荷力の定義が曖昧であり実務者が困っていること等から、今年度は業務として行われている耐荷力検討の現状を把握することとした。したがって、特に報告書としてまとめるまでには至らなかった。次年度は現状の検討内容とその問題点を明らかにし、実務的な立場からの耐荷力評価方法について言及する計画である。

補修グループは、前年度収集報告した損傷事例のうち、国内に多い対傾構取付け補剛材のクラックについて、既発表の論文・報告を調査し、原因究明と補修方法の勉強をした。この問題については、既にかなり研究が進んでいるため特にまとめることはせず、次年度に計画している「補修に伴う問題」の検討に役立たせる事とした。

以上、当研究部会の状況を述べた。十分な成果が得られたとは言い難いが、今後部会メンバーの協力のもとに活発な研究活動を進める所存でいるので、周囲の暖かい支援をお願いしたい。